

火曜会通信

発行日：平成13年4月1日

発行：伊丹市文化財ボランティアの会

発行所：伊丹市千僧1丁目1番地

伊丹市教育委員会事務局内

<巻頭言>

『文化財ボランティアとは』

会長 坂根 俊彦

文化財ボランティアの会（火曜会）に関わって5年が経過しました。その間に体験した事を述べたいと思います。

当初、知人・友人に火曜会を説明する時に、先ずガイドボランティアを行なっていると一口に言えば簡単に理解されるが、本当の姿を知って頂くには苦勞しました。

この会の目的は、自主的に分科会に入り伊丹市の文化財を学び、市民の皆さんにその遺産を親しんでいただく為に活動していると言っても過言ではありません。

我が国のボランティア活動は福祉分野から始まり、環境問題、災害救助、教育活動などに広がってきました。この火曜会は全国的にみて数少ない生涯学習を行なっている団体であると自負しています。また環境問題にも関心をもって伊丹環境ネットワークに加盟し、活動しています。

21世紀を迎えた今年は6年目に入り、新しく出前事業を発展したいと考えワーキンググループを発足させ、学校等の課外活動、また自治会、老人会などの教養活動等それぞれにあったメニューを提供したいと考えています。

また、昨今話題のIT革命のひとつであるインターネットによる情報発信を、ホームページ上で開設したいと念じています。ぜひ関係各位ならびに会員皆さんの御協力を御願いたします。

社協だよりを引用いたしますが、ボランティア活動とは、

- (1) 自発性：自らすすんで、やる気のあること
- (2) 福祉性：自分たちの住んでいる地域をより良くすること
- (3) 無償性：報酬を期待しないこと
- (4) 継続性：自分のライフスタイルの一部とすること

以上は、言うまでもなく火曜会が目指している理念と合致していて、意を強くした次第です。

主な行事予定（5月から7月）

◇ 定例会

☆ 分科会日程は4ページです

5月 8日（火）

定例会「研修旅行事前研修」

中央公民館

5月17日（木）

春期研修旅行「橿原市今井町」

集合場所 市役所玄関前

集合時間 8：00

6月12日（火）

定例会「市外研修事前勉強会」

スワンホール

7月10日（火）

定例会「研究発表」

中央公民館

酒蔵のある町

姫路から伊丹（中部方面総監部）へ転勤内示を受けた昭和35年2月初旬、転勤先の下調べのため伊丹の町を訪ねた。総監部へ行くためのバス乗り場、配置先の状況等の事前確認のためである。転勤を命じられ、内示段階で転勤先を尋ねることは通常させてはもらえない。さいわい伊丹と姫路は極めて近いため、上司が特別な配慮をしてくれた。

旧国鉄伊丹駅を降りた私は左の坂道を登り、今の伊丹3丁目あたりの細い路地に迷い込んだ。その辺りは昔ながらの板塀・格子戸のある家屋が並び、幼少の頃祖父が住んでいた田舎の風景を思い出した。そんな家並みを眺めつつ歩いていると、仄かな甘酸っぱい芳醇な酒の香りが一面に漂ってきた。そこには白壁と黒瓦の酒蔵が聳えていた。暫く歩いていると車の往来の激しい道路に出た。

今の産業道路で、当時の道幅は今のようになかった。その道を右に折れて行くと、いかにも古めかしい酒蔵に突き当たった。伊丹最古の酒蔵、万歳1号蔵である。白壁と黒瓦は随所に亀裂や剥がれがあり苔むしている様子は数百年の風雪を感じ、往時の繁栄のほどが偲ばれた。このように歴史の重みを肌で感じる町に赴任できることに感謝し、興奮したのをついこの間のような気がする。

あれから40年、酒蔵は次から次へと壊され当時の面影はない。昨年、数少ない酒蔵がまた取り壊され、酒蔵のある町として世間に認められていた伊丹の貴重な文化財は、正に風前の灯火である。かつて日本一の酒の産地を誇った伊丹酒。今一度スポットを当ててみたい。

唯一伊丹酒を支えているのが「山は富士・酒は白雪」で、かつて女優の山本富士子さんをイメージキャラクターに、全国津々浦々に知れた銘酒「白雪」。その本拠地が産業道路の中心地に、酒蔵を模した瓦屋根・白壁造りの実にユニークな建物が小西本店である。

特に本店前にある古そうな酒蔵「万歳1号蔵」は小西家初代が1578年に建てたと言伝えがあり、今も使われているから驚かされる。蔵元は白雪の他に「老松」の老松酒造、「大手柄」の大手柄酒造などがあるが、小西酒造の比ではない。

JR伊丹駅の改修と駅前周辺の再開発に伴い、私が赴任した当時とは随分変貌した。伊丹駅は伊丹段丘の狭間にあるため陸橋が架けられている。この陸橋からの眺め、風景が良い。右方に樹木が繁る丘と石垣を垣間見る場所が、かの伊丹城趾である。史碑によると、伊丹氏のあと、荒木村重が入城し有岡城と改めた。その村重が信長に謀反したため1579年（天正7年）落城、消失したという。当時を偲ぶには僅かに残る石垣から想像するほかない。

戦国時代に触れたのは、伊丹郷の酒造りと非常に深い関わりがあるからである。神酒をはじめとして、酒には限りない名目が付けられ戦乱期のエネルギー源になったに違いない。また大平の江戸期に入って伊丹郷の酒造りは一層隆盛し、池田、灘、伏見などの酒どころを凌いで全国一であった。（次号に続く）

参考文献：日本の銘酒／稲垣真美・酒は猪白／加藤百一
・伊丹郷町物語／真鍋慎男・万有百科辞典



□ 主な活動の記録 □

＜文化財ボランティア養成講座への協力＞

- 実施日 ①3月 6日 「史跡めぐりガイドリハーサル」のサポート
火曜会参加者 山本（紀）・片山・山中・松本・中尾・浜野さん
②3月10日 「史跡めぐり」市民参加50人に同行
火曜会参加者 第2部会（街道を歩く）リーダー松本さん・他10名



＜リレー随想＞

『私の生涯学習』 渡邊 敬子

縁あって中国語を学んでいます。読む、書く、話す、簡単に考えて入門しましたが実際には色々な問題があってなかなか大変です。しかし、あまり追求すると難しくて勉強できなくなります。生涯学習の一つですから次のように考えています。

1.楽しんで学習します

最も楽しいのは現地学習です。地図を見て、これから行く地方の都市名の読み方を覚え、文化遺産の所在地を確認します。

急に旅行会話に力を入れたり、三国志を読返してみたりします。

餃子の作り方講習会では、説明をよく聞き、片言の中国語で質問して料理を作ります。

2.勇気を出して書いたり話したり

かつて、先生であった中国在住の友人に年賀状と折々の近況を勇気を出して中国語で書きます。これで意志は通じているのだろうか？語順は正しいだろうか？どうしても表現しにくい部分は日本語で書きます。上海在住の友人とは現地で二度、その後、彼が来日の際に一度再会し会話しました。

3.根気よく続けます

「石の上にも三年」の諺がありますが、語学は10年かかると聞いています。ゆっくりと根気よく学習していくつもりです。

次回は杉本治子さんをお願いします。

『時の流れ』 浜野 芳雄

神様、仏さまに手を合す、また神事に接する唯一の機会、日本古来の教え、その流れを成行きに委ねられているように思っていますのは私だけでしょうか。

10月15日は秋祭りだ。最近、この15日に近い土曜日、日曜日に変更され、村の人達、それに若者達も集らないのが原因だそうです。

農耕民族が収穫を祝し、氏神さまに感謝の意を表し、天地に報告し、村民挙げて祭り事をする、これらの行事にも時代を反映している。鎮守様も毎年変わる日時にとまどいを感じていられる事でしょう。

クリスマスの飾付けは年々早く、11月半ばぐらいから街中にはお目見えし、道ゆく人々の目を奪う。音楽が奏でられ、色とりどりの電飾気分は最高。

テレビに写し出される映像は、さながら外国の繁華街を連想させられます。このような飾りつけ電飾は住宅地にも普及し、現在は少しずつ増えつつあります。

門松しめ縄が後すざりする感があります。氏神様がない新興住宅地などでは、第2土曜日に地域小学校校庭でどんど焼きをするとのこと。

成人式に集う青年男女の晴れ姿を横目に子供の手を引き、猪名野神社にお正月のお飾りを持ってお参りしたのは遠い昔かなあ
次回は片山美代子さんをお願いします。

□ お知らせコーナー□

<分科会開催日程>

◇ 第2部会（街道を歩く）

別紙日程をリーダより配付します。

◇ 第3部会 （いずれの日も集合時間は13.30です）

5月1日（火）	6月12日（火）	7月10日（火）
中央公民館	スワンホール	未定
古文書の研究	古文書の研究	古文書の研究

◇ 第1部会（村の歴史）（いずれの日も集合時間は9.30です）

4月17日（火）	5月15日（火）	6月19（火）
中央公民館	中央公民館	中央公民館
打ち合せ	打ち合せ	打ち合せ

□ 分科会リーダー・サブリーダーが決まりました

「第1部会」リーダー	柴田（博）さん・豊田さん・山本（喜）さん
「第2部会」リーダー	浜野さん サブリーダー 松下さん 顧問 松本さん
「第3部会」リーダー	中尾さん サブリーダー 坂根さん

素びねのむかし話

□ある和尚さんの不思議な話□

松本 繁

むかし、すごく真面目に働く和尚さんがいて、どんな日でも朝早起きしてお経を詠んでいたそうでね。でも、毎年夏になると和尚さんが寝る頃に蚊がたくさんは入り込んで、和尚さんは蚊に刺されて全身が痒くて眠れない毎日を過ごしていたんだけど、それでも毎日仕事はきちんとしていたもんだ。

ある晩、今夜も相変らず蚊が入ってきて、和尚さんは何とか寝ようとしていたんだけど寝られずにいた。その時、一寸ばかりの小さな侍が小さな馬に乗ってやってきて、しばらくしてその侍が誰かに指示したらしく、その侍によく似た侍が2人・3人・・・と、どんどん増えて、またしばらくして1人の侍が、また何かを指示すると馬に乗った侍達がどんどんと蚊を退治して、何分もかからないうちに一匹の蚊もいなくなってしまったんだよ。それ以来、蚊も寄りつかなくなって、和尚さんも毎日良く眠れるようになったんだとさ。

投稿コーナー

難波 希美

春の陽の 立ち装いたる
足陽地に 足を乱して
かもめ群れ 飛ぶ
(足陽地)

ちりぬるをわかよたれそと
梢の 梅ははじけて
私語につきゆく
(緑ヶ丘公園)

ひとすじの水にロマンを
たたえつつ 手水鉢はひかる
千年の 垢に
(臂岡天神)

しなやかに しゆくしゆく
して堂の中 仏は餌の千手を
のばす
(西明寺)

石うすも 積も交えて白鷺の
垣は野面に 暮本に積まる
(白鷺城)